

1. 玉川上水分水表 「上水記」より *印は別資料から補正

分水名	開設期	大きさ	距離		
拝島村	明暦3*	1654	49寸坪	30町	3.2km
殿ヶ谷新田	享保5	1720	64	1里12町	5.3
柴崎村	元文2	1737	150	1里半	6
砂川村	明暦3	1657	49	1里余	4
野火留村	承応年中	1655	1200	6里	24
平兵衛新田	享保17	1732	60	1里半	6
中藤新田	享保14	1729	60		
小川村	明暦2*	1656	100	2里	8
南野中新田	享保14	1729	60	1里	4
鈴木新田	享保17*	1734	150	2里	8
国分寺村	明暦3	1657	100	1里半	6
大沼田新田	享保14*	1729	80	2里	8
野中新田	享保13	1728	60	2里半	10
田無村	元禄9	1696	16	2里半	10
鈴木新田	享保19	1734	90	1里	8
関野新田	享保17*	1732	64	1里半	6
下小金井村			100	1里	4
下小金井新田			64	5町	0.5
梶野新田	享保19	1734	64	2里	8
千川用水*	元禄9	1696	300	6里	24
境村			100	24町	2.6
品川用水	寛文9	1669	625	7里半	29
牟礼村	延享2	1745	64	20町	2.1
烏山村			25	1里半	6
上北沢村			100	1里半	6
下高井戸村	安永4	1775	9	5町	0.5
幡ヶ谷村			4	16町	1.7
三田用水			900	2里半	10
神田上水助水	寛文6*	1667	169		
原宿村	享保9	1724	9	15町	1.6
その他に千駄ヶ谷・戸田因幡守抱屋敷、四谷内藤新宿・内藤大和守下屋敷、四谷内藤新宿・田安下屋敷等へも分水された。					
☆ 田村(福生)分水、熊川分水、源五右衛門分水等は慶応年間から明治期に造られた。					

2. 武蔵野台地を潤した玉川上水の分水

原図 肥留間博著「玉川上水 親と子の歴史散歩」から

明治23年頃の玉川上水分水図



豆知識 野火止用水

玉川上水完成の翌年に、全取水量の約1/3の3600寸坪(常時使用は1200寸坪)が認められるなど、開設の早さや規模の大きさなどと謎の多い分水である。なお、僅か40日で掘り終えたとの記録が残されている。

野火止は元禄期までは「野火留」と書かれた。また、当時の老中松平伊豆守信綱により開削されたことから「伊豆殿堀」とも呼ばれている。

国定教科書の「高等小学読本・巻一第六課」に野火止用水にまつわる逸話が載っている。これによると堀が出来てから3年後に、やっと野火止まで水が通じたとある。

また、これに関連した「通水祈願・祈願成就」の話が、小平市中島町の小さな「一宮神社」に伝わっている。

小平市内に残る砂川用水



3. 分水の役割

☆ 生活用水・田・畑用水

開削当初は呑み水や田・畑の用水として使われ、新田開発に貢献した。

また大名屋敷庭園の泉水等にも使われた。

☆ 水車の動力源

宝暦11年(1761)最初の水車が設置された。天明8年(1788)分水全体で約30台の水車があった。また、明治30年頃には小平だけでも約40台の水車が設置されていた。

精米、精麦、製粉、清酒用精米、撚糸、火薬造り、大砲の砲身削り、発電機動力伸銅、エボナイトやカレー粉の粉碎等戦後昭和25年ごろから水量の減少や、電気の普及により水車は次々に使命を終えた。

☆ 工業用水としてビール作りにも

製紙(王子)、大蔵省印刷局(昭和46年まで)原料水・洗瓶等(昭和49年8月まで恵比寿ビール)蒸気機関車等への給水(上野駅、新橋駅他)

☆ 環境用水

新しい役割として都市環境に潤いをもたらす環境用水として見直されている。

豆知識 寸坪(すんつぽ)

分水口(水の取り入れ口)の大きさは「寸坪」の単位で表される。1寸×1寸を1寸坪(約3cm平方)と呼ぶ。

玉川上水の取水量は9000寸坪とされ、

一番大きい野火止用水は1200寸坪[6尺(約1.8m)平方]

一番小さな幡ヶ谷分水は4寸坪[2寸(約6cm)平方]

水不足になると分水口は半開きや3分開けとなった。江戸末期頃には常時3分開けとなり、更に1分開けや皆止め(全閉)なども行われた。このため分水口の脇に穴を開けた盗水事件や、水をめぐる農民同士や新田間の水争いなどの記録も残されている。

4. 分水の現状

☆ 今でも多摩川の清流が流れている。

福生(田村)分水 熊川分水 拝島分水 柴崎分水 砂川用水 新堀用水(小川分水、鈴木分水、大沼田分水、野中分水、田無分水等)

一部を除き水量不足で途中で流れは途絶える。

☆ 高度処理水が放流されている。

野火止用水(川越街道・野火止公園まで) 千川上水(青梅街道・伊勢橋まで開渠)

☆ 暗渠化など

そのほかの分水はすでに流れは止まり、水路は暗渠化や下水管の埋設などが行われ、上部は緑道や公園、一般通路等になっている。

5. 分水口の統合(分水改正)

明治3年に現在の小平付近の分水口が改正された。

それまで玉川上水に直接設けられていた19の各分水口は、南北2つの分水口に統合された。(柴崎分水、野火止用水、千川上水は後に単独の分水口にもどる)

上水南岸の柴崎分水から境分水まで11の分水は砂川用水(翌年深大寺村まで延長されたため深大寺用水とも呼ばれる)を中心にした一つの流れにまとめられた。

北岸は野火止用水から千川上水まで8つの分水は新たに掘られた新堀用水を中心にとまとめられた。

分水口統合は当時慢性化していた水不足対策とされる、各分水口を利用量に応じた大きさに改めた。

それまでは水料を免除されていた、享保以降に開発された各新田分水からも徴収することになった。しかし最大のねらいは、各分水口での盗水の防止対策とされる。

また、このころ、玉川上水路の通船事業の開始にともなう水路の整備が行われた。船の通行に障害となる分水口の整理も分水改正のねらいとされている。

玉川上水ワンポイントガイド No.2

玉川上水の分水

玉川上水は南武蔵野台地を東西に流れている。羽村から四谷大木戸までの左右両岸に、数多くの分水路が開かれ(一説では総延長約400km)、生活用水や農業用水として使われ、多くの新田開発等に寄与した。



砂川用水・柴崎分水分水口

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

No	テーマ
1	玉川上水の概要
2	玉川上水の分水
3	玉川上水の分水・小平編
4	玉川上水と新田開発
5	玉川上水の橋
6	玉川上水の水車
7	玉川上水の通船・船溜り
8	玉川上水の樹木・野草・野鳥
9	玉川上水と小金井桜
10	玉川上水あれこれ
11	玉川上水お勧め散歩ガイド

発行 No.2 2007年5月

発行 小平・玉川上水再々発見の会
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
代表 庄司徳治